

富士宮市 富丘こども園

副園長 足立和俊先生

令和七年三月、新園舎改築工事が無事終了し、富士山本宮浅間大社宮司により厳粛に竣工式が執り行われました。

新園舎は二カ年計画で実施し、令和五年の一期工事では旧遊戯室の解体をし、その地へ保育室を中心とした北棟を建設しました。

令和六年五月、旧園舎から新北棟園舎へ引っ越して保育を行いながら二期工事へ移りました。築四十六年の鉄筋コンクリートの旧園舎は、私も過ごした思い出の園舎で心寂しい気持ちでしたが、解体を行い新中央棟と新南棟の建設を行いました。最終は一期工事の新北棟園舎と二期工事の中央棟南棟を連結し無事に改築工事を終了することができました。

富丘こども園の前身である富丘保育園は、私の祖父父母により昭和二十八年に創立し、今年で創立七十二年となります。

戦後の戦争孤児を収容する少年教護院であった静岡県立三方原学園に七年間勤務した祖母は「子どもたちとの生活は、筆舌に尽くしがたいものであり、赤裸々な人間と人間とのぶつかり合い、心と心の戦いであった」とよく話してくれました。そして「そこに教育の力はあるのだろうか」と悩み苦しむ「私たちは教育者なのだ。教育を信じ、その可能性を信じなければ生きていく証がない。その教育の力は幼児時代が最も重要であることを身

をもって学んだ七年間だった」と。

昭和二十八年当時富士宮市制十周年となり、旧富丘村地区の陳情団は幼稚園設立運動を展開しており、地域の人々の熱意に動かされ、保育所の設立を決議しました。後援会を組織し多くの寄付と借入金を中心に富丘保育園として同年六月に園舎を起工し、九月竣工しました。



創立当時の木造園舎と保母と子どもたち
(第1回卒園写真)

昭和三十年から四十年代にかけて子どもの増加に合わせて園舎や給食室の増改築を行い、昭和五十三年三月には社会福祉法人の認可を得て、鉄筋コンクリート造の新園舎（定員一八〇名）を新築しました。その後も利用

人数が増加し続けたため、あらたな新施設を設立するよう要請を受け、昭和五十九年四月学校法人としてリーチェル幼稚園を八〇〇㎡離れた地へ設立いたしました。

その後、富丘保育園は平成三十一年四月に認定こども園へ移行し、今日に至っております。



平成31年4月認定こども園認可
令和7年2月新園舎改築工事完了
(定員1号6名 2、3号118名)

新園舎改築を契機に、改めて今後の乳幼児教育やこども園のあり方について、職員一同見直しを進めてきました。総合保育のあり方、行事の見直し、子どもの人権、職員の働き方や職員間の共通理解など、さまざまな課題をあげ改革をすすめています。

教育の力を信じ、子どもたちの将来への生きる力を育みながら、初心を忘れず子どもたちと共に成長していくよう職員一同精進して参ります。